ASSOCIATION JAPON DE LA PRESSE SPORTIVE

AJPS NEWS

日本スポーツプレス協会会報

AJPS 25

MARCH,25 2008

AJPS AWARD & 分科会特集

表紙は語る

ここは日本の裏側になる、ブラジルのリオデジャネイロ。ここで、2007年柔道世界選手権が開かれた。青いマットに黄色い畳、海外の試合ではおなじみの色彩の中、48キロ級の小さな体が小躍りした。谷亮子は2000年シドニー、2004年アテネ両五輪で2連覇中、世界選手権も過去6連覇を達成するなどの偉業を成し遂げている。そして、今回は出産後、初となる国際試合。「母でも金メダル」を掲げての挑戦だ。国内選考会で敗れはしたが、選出された今大会、結果が問われる非常にプレッシャーのかかる状況だ。組み合わせも非常に厳しいもので、正直、優勝するのは無理じゃないか、という空気が周りを包んだ。2回戦がアテネ五輪銀メダルのフレディック・ジョシネ（フランス）、準決勝は07年ヨーロッパチャンピオンのアルナ・ドゥミトル（ルーマニア）、決勝で前回大会優勝者のヤネト・ベルモイ（キューバ）を撃破しての金メダル獲得は、驚きと同時に、どうしてこんなに精神的に強くなれるのか不思議な感じがした。この優勝は世界選手権、男女を通じて最多の7個目の金メダルとなった。ママになって初めて臨んだ世界選手権で、08年の北京五輪へ向けて弾みをつける金メダルになったのは事実だ。

築田　純
TSUKIDA,Jun

■撮影者プロフィール

1962年、埼玉県所沢市生まれ。東京綜合写真専門学校卒業。スポーツ写真家の水谷章人氏に師事。
1988年にフリーランスとして活動を始める。
1989年第5回東川賞新人作家賞受賞。
オリンピック、ワールドカップサッカー、各種スポーツの世界選手権など幅広く活動している。
スポーツ写真家集団アフロスポーツのチーフフォトグラファー。JOCオフィシャルフォトグラファー。

foreword

メディアも体力づくりが必要

飯塚健司
IIZUKA,Kenji

健全な原稿は、健全な身体から生まれる。

まだまだ短いライター人生ですが、そう感じています。頭痛を感じる、熱があるなど体調が悪いときは、やはりパソコンを打つ手が鈍くなります。どうしても集中力が持続しません。

昨年7月、サッカーのアジアカップが東南アジア4か国（インドネシア、タイ、ベトナム、マレーシア）を舞台に開催されました。日本代表が振り分けられたベトナム。敗退まで取材を続けた結果、ハノイに19日間、インドネシアに3日間の滞在となりました。この期間中、万全の体調で過ごした日は数えるしかありませんでした。灼熱の気候に体力を奪われ、弱った身体が現地の食事も受け付けず、腹痛に悩まされ……。ふとまわりをみると同じように苦しんでいる取材陣が多く、日本代表の練習場から病院に運ばれた方もいらっしゃいました。

体調を崩しても、締め切りはやってきます。苦しみながら原稿は完成させましたが、やはり思考の範囲が狭くなることは否めません（もちろんそのときもベストは尽くしています）。より幅広く、深く物事を追求するには万全の体調でパソコンに向かうのが一番です。良い原稿を書くために、普段から体力づくりをしておくのが重要だと考えて、帰国後にさっそくジョギングをはじめました。勢いに乗って東京マラソンにも応募してみましたが、あえなく落選となりました。

08年もまた、北京オリンピックやサッカーの欧州選手権（オーストリアとスイスの共催）など、世界各地で数々の国際大会が開催されます。長期間の取材を予定しているAJPS会員の方も多いと思います。私も含めてなによりも体調に気をつけて取材を進めたいところです。

C O N T E N T S

3 AJPS AWARD制定
5 AJPS分科会レポート
陸上競技6／サッカー10／柔道12／体操14／バレーボール16／バスケット ボール20／ラグビー22
24 ニューフェース写真館
小橋城24／萩原利一26
28 あなたにとってのスポーツ名場面とは
30 The NEWS of AJPS NEWS 25
31 2008主要スポーツカレンダー

AJPS AWARD 制定!

日本スポーツプレス協会

この度、日本スポーツプレス協会 (AJPS) 国内部では、AJPS各スポーツ部会の協力の下、
「AJPS AWARD」を制定する運びとなりました。

これは、つね日頃から取材活動をとおしてお世話になっている各競技団体、そして選手、役員の皆様と交流を深め、すこしでもご便宜に報えればという考えから、理事会の承認のうえ、制定する運びとなりました。

第1回となる今回は、現在AJPS内にある分科会 (陸上競技、サッカー、体操、柔道、バレーボール、バスケットボール、ラグビー) の中から、個人賞とチーム (団体) 賞の二つの賞を設けました。

各分科会からノミネートされた選手、団体は以下のととりです。

陸上競技	個人賞	土佐礼子	IAAF世界陸上選手権大阪大会、女子マラソン銅メダリスト
	チーム賞	男子4×100mリレー日本チーム	IAAF世界陸上選手権大阪大会で38秒03のアジア新記録で5位入賞
サッカー	個人賞	中村俊輔	スコットランド・プロサッカー選手協会年間最優秀選手ならびに協会年間最優秀選手の二つの個人タイトルを獲得
	チーム賞	浦和レッズ	アジアチャンピオンズリーグACL優勝およびFIFAクラブワールドカップ3位
体操	個人賞	水鳥寿思	補欠選手として登録された世界選手権で4個のメダルを獲得する活躍
	チーム賞	—	該当チームなし
柔道	個人賞	谷亮子	世界選手権女子48kg以下級優勝
		塚田真希	世界選手権女子無差別級優勝
		棟田康幸	世界選手権男子無差別級優勝
		石井慧	嘉納杯東京国際大会100kg超級優勝
	チーム賞	—	該当チームなし
バレーボール	個人賞	佐野優子	全日本に復帰してからの活躍に対して
	チーム賞	佐伯美香	ビーチバレー・2007年のワールドツアーの活躍にたいして。アスリートとして、結婚、出産後もトッププロとして活躍。37歳という年齢にありながらも、日本のトッププロとして世界の舞台で結果を残している事に対して
バスケットボール	個人賞	—	エントリーなし
	チーム賞	—	エントリーなし
ラグビーボール	個人賞	—	エントリーなし
	チーム賞	—	エントリーなし

AJPSのホームページがリニュアルされ、毎日更新されています。新しいタイプのスポーツ情報源としてご活用ください。

http://www.ajps.jp

AJPS AWARD 2007

体操・水鳥寿思選手の跳馬の演技
Photo by TAKEUCHI,Rimako

バレーボール・佐野優子
Photo by SAKAMOTO,Kiyoshi

ビーチバレー・佐伯美香
Photo by MAKINO,Ryutaro

AJPS AWRD 2007は、前ページにノミネートされた選手、チームの中から、日本スポーツプレス協会会員による投票を参考に、「AJPS AWARD 2007」選定担当者との協議により選定されます。

そしてAJPS AWARD 2007は、2008年5月に東京の日本青年館で開催される日本スポーツプレス協会総会後の懇親会で発表される運びになっております。

さて、栄えある第1回の受賞者は、どの選手、どのチームになるのでしょうか？ご期待ください。

陸上競技・男子400mリレー日本チーム
Photo by TSUKIDA,Jun

サッカー・中村俊輔
Photo by SAWADA,Kiminori

柔道・谷亮子
Photo by TSUKIDA,Jun

Photo by KATO,Yosbio

特集

2007-2008シーズン
日本スポーツプレス協会

分科会レポート Report

日本スポーツプレス協会では、円滑な取材活動を行うため、競技ごとに分科会を設けて各協議団体広報担当者の方と連絡を取り合っております。現在、正式に理事会で活動を認めているのは、陸上競技、サッカー、柔道、体操、バレーボール、バスケットボール、ラグビーの７競技。

今回、その分科会を中心にしてAJPS AWARDが立ち上がることになりましたが、これを機に今年度の分科会の活動状況を分科会ごとにレポート、特集してみました。

Photo by IDA,Shinsuke

Photo by TAKAHASHI,Manabu

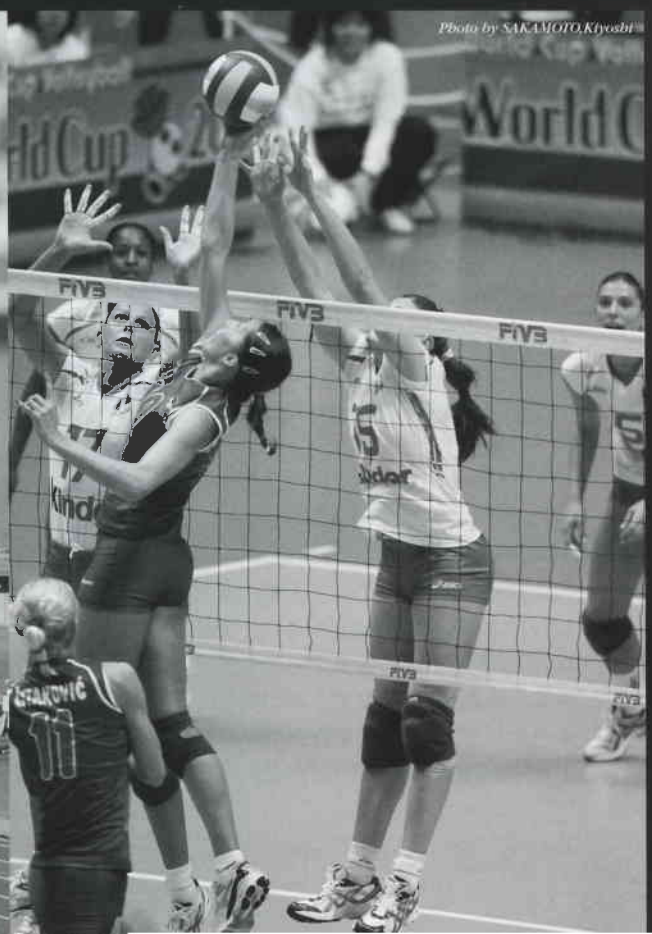


Photo by SAKAMOTO,Kiyoshi

A 陸上競技 分科会
Athletics Division

11th IAAF World Championships in Athletics Osaka,25 August-2September 2007

2007世界陸上選手権　大阪大会レポート

寺田辰朗
TERADA Tatsuo

2007年、陸上界最大のイベントは、8～9月に大阪で開催された世界選手権だった（以後、世界陸上と表記）。隔年開催の世界陸上は、早いもので5回連続7回目。自分なりに気がついたことを少し書いてみたい。

ペン取材に関していえば、非常にやりやすかった大会だった。次の2点が画期的だったと思う。

一つはミックスドゾーンにマイクを設置したこと。従来は選手が足を止めた近くの記者にしか声が届かなかった。選手が立ち去った後に、近くにいた記者たちを、他の記者たちが取り囲む風景が当たり前になっていた。

選手は陸連の広報が誘導してくれる。複数の日本選手が同時にミックスドゾーンに来ても、交通整理がうまくされていた。1人で全種目をカバーしなくてはいけない記者には、これが本当に助かった点だ。

もう一つはプレスルームとミックスドゾーン、メダリストの会見場が近かったこと。この3つの記者の導線のせいもある。過去の大会では、プレスルームが何百メートルも離れていたことがあった。メダリスト会見場とミックスドゾーンが隣接していたので、競技終了後1～2時間の間に会見が始められる。日本選手をミックスドゾーン、メダリスト会見場と、両方で取材する記者には最も取材しやすい会場だった。

競技開始時間もきわめて正確。陸上競技は本当に多くの種目があり、予選など10組以上行われるケースも多々ある。スターターのピストルが鳴らなかったりと、ちょっとしたアクシデントも付き物だ。海外ではどんどん後ろにずれていくのが、当たり前になっている（特にアジア開催の競技会）。

それを考えると100パーセント定刻に始まった今大会は、日本の運営能力が世界でも類をみないほどきちっとしていることを示したといえるだろう。

ただ、その犠牲になったものがあった。ウイニングランである。優勝者が国旗を持って場内を周回し、スタンドに喜びをアピールする。観客も、競技の時とは違ったトップ選手の表情を、間近で見ることができる。スーパースターのウイニングランは、会場を盛り上げるため、ひいては陸上競技人気を高めるためには欠かせない要素である。

ところが、ウイニングランを第2コーナー付近でストップさせることが多かった。運営時間を優先した結果だと思われるが、スーパー陸上などに比べ、世界陸上はタイムテーブルに余裕がある。確かに、第3コーナーまで行ってしまうとストップさせづらいのだろうが、もう少し場内の盛り上がりにも配慮してもよかった。

同じように、音響面ももう少し工夫が必要だった。レース直後の日本選手のインタビューを場内に流しているのだが、ほとんど聞きとれなかった。

最後にこれだけは書いておく必要がある。とにかく、入場料が高かった。どのカテゴリーの座席も、91年の東京大会のほぼ2倍。大阪大会の夜の部は以下の金額（前売り）である。

S席：14,000円
A席：10,000円
B席： 7,500円
C席： 4,000円（子供2,000円）

中学生・高校生が見にいける値段だろうか。あるいは陸上競技経験のある父親や母親が、子供を連れて見にいけるだろうか。

東京大会の入場者数は58万人で、大阪大会は35万9000人。約6割に減ってしまったわけだが、倍の入場料であれば主催者の収入は増えていることになる。これでは、広告代理店の思うつぼだ。

地元開催を機に、陸上競技を普及させることが、陸上界を挙げての課題だった。入場料金設定というもっとも根本的なところが、陸上競技関係者の開催意図とはまったく違っていた。

1
第11回IAAF世界陸上競技選手権大阪大会の会場になった長居陸上競技場
Photo by TSUKIDA,Jun

2
記者会見場は、ミックスゾーンの奥に隣接されていた
Photo by TSUKIDA,Jun

3
高温多湿、地元のプレッシャーが仇となり日本選手の多くがコンディション不調、期待された成績が残せなかった。写真は棒高跳びで記録なしに終わった澤野大地選手
Photo by TSUKIDA,Jun

1

2

3

陸上競技（分科会）
Athletics Division

世界陸上大阪大会レポート
[フォトグラファー編]

築田　純
TSUKIDA Jun

大会運営やフォトポジション、その他大会に関してフォトグラファー側から感じたことをリポートします。

フォトポジションに関してはグラウンドレベルからアドボードの後方から撮影できたこと。また、観客席のポジションや空席からも撮影ができたことは非常に良かったと思います。良いフォトポジションというのは、アウトフィールドからどれだけ競技を撮影できるかという点につきます。その意味では投てき競技、跳躍競技とも何とかカバーできたように思います。

しかし、第3コーナーから第4コーナーにかけてのフォトポジションは、問題がありました。レールを敷いてランナーを追う移動TVカメラの設置によりアドボード裏（トラックレベル）には、一切立ち入れませんでした。このあたりは200m、400mハードル、3000m障害、棒高跳びなどを撮影する時、非常に大切なポジションです。観客席にフォトポジションがあるにはあったのですが、観客に立たれてしまった時にはお手上げです（観客席に空席が多かったので、結果的には助かりました。もしも超満員だったら、かなり厳しい状況になっていたと思われます）。

陸上競技で一番重要なゴール正面のフォトポジションは座席を取り外してあるだけで、特にフォトスタンドのような階段が造られるようなことはありませんでした。結果的には来日した外国人フォトグラファーが少なかったため混乱することはありませんでしたが、本来ならアングルの高さの違いはあるにせよ、正面から撮れるスペースを確保するべきだと思いました。

また、インフィールドを希望するフォトグラファーは前日の15時までにどの種目を撮影したいかリクエストを出しておけば、当日に余裕があればインフィールド撮影が可能だったようです。それにしても、インフィールドにいるTVカメラマン・クルーの数には辟易しました。スチールカメラマンとTVカメラマン・クルーたちと共存共栄できるシステムや環境を整えることができればいいのですが、多分無理な話でしょう。そういう意味でも、スチールカメラとTVの間に立って、「マーシャル」的な役目の人がフォトポジションにほしかったと思います。

今、スチールカメラもラジオスプレーを多用する時代になってきました。なんと、この大会ではそのラジオスプレーについて電波使用料というのでしょうか、カメラ1台につき約4万円の使用料が必要でした。

プレスセンターについては、最初は「狭いかな」と思っていましたが、結果的にはそうでもなかった（プレスの数が予想より少なかった）。距離的にスタジアムから近かったのはいい点でした。また、廊下にはダイヤル式ロッカーが300個近く設置されており、余裕を持って利用できた。フォトグラファー用の部屋にはカメラサービス（ニコンとキヤノン）が入っていた。ニコンはオフィシャルIAAFパートナーとなり、この大会で新製品D3の発表と貸し出しをしていました。

また、無線LANが一種類の電波しか許されなかったのには疑問が残るところです。

陸上部会報告

日本スポーツプレス協会（A.J.P.S.）は例年通り、（財）日本陸上競技連盟主催の在京競技場で行われる陸上競技大会（高校総体、中学総体、国体を含む）およびマラソンのインフィールドビブ（No.16、No.17）の2枚を当協会で預かりという形で継続しています。

該当競技会でのインフィールドの使用は、A.J.P.S.の会員であれば、どなたでも自由に使用いただけます。ただし、ビブスは2枚しかありませんので、当日会場に来ている会員による話し合いや抽選によって配布します。

また、マラソンなど、取材者（フォトグラファー）が多い場合、インフィールド撮影、および随行カメラ車撮影分をA.J.P.S.代表撮影とさせていただく場合があります。該当撮影者になられた方々には、ご迷惑をおかけすると思いますが御協力のほどをお願いいたします。

陸上部会は今後も（財）日本陸上競技連盟との連携を深め、スムーズな取材ができるように努力していきたいと思います。

（高橋学、築田純、藤田孝夫）

1
開会式で行進する日本選手団。ホストTVの移動カメラが選手にぴったりと寄り添う
Photo by TAKAHASHI,Manabu

2
男子50km競歩、期待の山崎勇喜は役員誘導ミスによりDNF扱い。取材していてもショックな場面だった
Photo by TSUKIDA,Jun

3
開会式のアトラクション。全会期を通じて、会場に空席が目立ったのはざんねんだった
Photo by TAKAHASHI,Manabu

1

2

3

サッカー分科会
Soccer Division

際立った中村俊輔と浦和レッズの活躍

白髭隆幸
SHIRAHIGE,Takayuki

2007年の日本サッカー界のトップニュースは？　なかなか難しい質問だ。1993年にプロリーグJリーグが立ち上がって、右肩上がりで発展してきた日本サッカーだが、2007年にある意味頂点に達した。

AFCアジアクラブ選手権（ACL）で浦和レッズが優勝。12月に日本で開催されたクラブワールドカップに開催国枠ではなくアジア代表として出場。準決勝に進出して、ヨーロッパ代表ACミランに0-1と惜敗したものの、3位決定戦では2-2の引き分けPK方式ながらアフリカ代表のエトワール・サヘルを破って見事に世界3位になった。クラブレベルでもアジアのトップに立った業績は称えられる。

その他、三連覇こそ逃したがアジアカップでベスト4をキープ、2010年南アフリカワールドカップ3次予選進出を決めたの男子代表。北京オリンピック本大会出場を決めたU-23代表となでしこジャパン（女子代表）、底抜けに明るかったU-20代表など代表クラスでの活躍も目立った。

個人では、本場ヨーロッパのクラブに移籍、チャレンジする選手が多い中、スコットランドのセルティックで中村俊輔がチームの中心になって活躍。スコットランド・プロサッカー選手協会最優秀選手ならびにスコットランド協会年間最優秀選手の二つの個人タイトルを受賞したことは特筆できる。スコットランドは必ずしもヨーロッパの中ではメジャーではないが、セルティックはUEFAチャンピオンズリーグで1次ラウンドを突破、決勝ラウンドまで進出した。

オシム氏が突然の病気で倒れたことは予想外の出来事だった。オシム氏は日本サッカーで長年の指導経験を持ち、日本サッカーに大きく貢献してきただけに残念なリタイアであったが、後を引き受けた岡田監督の指導の下、代表チームが3次予選、最終予選を勝ち抜き南アフリカ行くことが唯一の恩返しになるだろう。

2008年は北京オリンピック、そしてワールドカップ3次予選が話題の中心になるだろう。新しいヒーロー、ヒロインの登場が待ち望まれる。

1
AFC決勝でセパハンを破りアジアのクラブチャンピオンに輝いた浦和レッズ
Photo by IMAI,Kyoji

2
スコットランドリーグのセルティックで活躍する中村俊輔。国内二つの個人タイトルを獲得。サッカー選手として、もっとも脂の乗り切ったシーズンになった
Photo by SAWADA,Kiminori

1

AFC CHAMPIONS LEAGUE 2007
AFC CHAMPIONS LEAGUE
AFC CHAMPION LEAGUE

2

CARLING

柔道 分科会
JUDO Division

世界柔道選手権　リオデジャネイロ2007におけるフォトグラファー席について

築田　純
TSUKIDA,Jun

試合会場になった体育館は、畳が4面のレイアウトでした。基本的には、その4面に横一列とその後方に高い場所から撮影できるイントレが組まれていました。男女各階級の予選時はこの4面を使うので、各国フォトグラファーはそれぞれ目的の選手が出場する畳に移動しながら撮影するので、それほどの混乱はありませんでしたが、敗者復活最終戦（3位決定戦）、ブロックファイナル（準決勝）以降、試合をする畳が2面、決勝戦は1面となり、フォトグラファーがそこに集中してしまい、二重三重とひしめき合いながらの撮影になりました（決勝時は片側の側面をスチールカメラに開放）。その原因の一つとしてホストテレビ局のTVカメラの台数が1面につき2～3台、そして国際柔道連盟（IJF）のムービーカメラや審判のビデオ判定用カメラなどが、この畳の1面を覆い尽くし、スチールカメラの撮影ポジションがほとんど確保されていないのが現状です。日本人フォトグラファーは、私や専門誌、新聞・通信社など約10人ほどで、全体でも30～40人くらいで比較的人数が少なかったのが救いでした。

今後、東京でも2010年に世界選手権が予定されていますが、スチールカメラマンの撮影ポジションの確保が早急に検討されるべき事柄だと思われます。国内部としても柔道部会とともに、全日本柔道連盟広報部と協議していきたいと考えています。

1
4面で開催されたリオデジャネイロの世界選手権。スチールカメラマンのポジション確保が難しかった
Photo by TSUKIDA,Jun

2
山下泰裕氏に優勝の報告をする谷亮子。山下氏もうれしそうだった
Photo by TSUKIDA,Jun

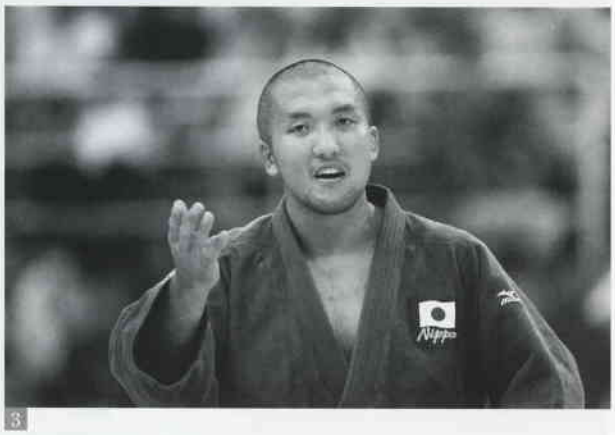
3
不可解な判定で敗退したアテネ・オリンピック男子100kg超級金メダリスト鈴木桂治
Photo by TSKIDA,Jun

柔道競技会の取材申請について（全日本柔道連盟広報部よりの回答）
◎プレスリリースは雑誌協会、新聞協会に流す。
◎フリーの団体等には流せない。
◎媒体の無いフリーの申請は一切受け付けない（※媒体があれば自動的に、担当編集者が上記協会より申請書を受け、申請するであろう）。
ここの所、取材者の多くが「カメラエリア／記者席等」、スペースが限られている為。
他、「全日本柔道連盟」管轄以外の地方大会では、その都度、地方柔道連盟で個人単位で問い合わせる（全柔連のホームページ参照）。

現在のところAJPS単独での取材申請は受け付けられません。雑誌協会などに加盟している出版社などで媒体を確保してからの申請が基本となります。今後、A.J.P.S.としても協会の認知と報道体制の見直しなど、全日本柔道連盟広報部と協議を続けていきたいと思います。（文責・芳賀伸哉）

1

2



3

体操 分科会
Gymnastic Division

世界体操選手権を取材して
アイリーン女史が去った後のフォトポジション

竹内里摩子
TAKEUCHI,Rimako

2007年9月1日～9日、ドイツ・シュツットガルトにて開催された世界体操選手権大会の取材に、私は足を運んだ。

どの競技でも殆ど同じであろうが、オリンピック前年に開催される世界選手権は、オリンピック出場枠を獲得する重要な大会となる。各国最強メンバーを揃え、自国の出場権獲得に必死となる大会なので、当然取材者であっても気合が入るものだ。

体操や新体操の世界選手権・ワールドカップなどの大会はIFである国際体操連盟(FIG)の主催大会となっている。他にトランポリン・エアロビクス・一般体操の世界大会「ジムナストラーダ」もFIGの管轄競技大会である。

そのFIG主催大会の取材について、ここ数年変化が起きている。2002年に長年FIGのオフィシャルフォトグラファーを務めてきた、繊細で公の目を持ったアイリーン・ラングスレー女史から、物静かなドイツ人に世代交代をしたのだ。始めの1、2年はアイリーン女史がつくり上げたシステムの貯金でどうにか回っていたようだが、何せ大会は生き物。同じ競技・同じ会場であってもレイアウトも微妙に違ってくる。撮影場所は限られてくるのも事実だが、実際に現場に立ってからの手直しがあって、やっと「使える」生きた取材場所となるものである。それが、ただ図面上の取材エリアとなりつつある大会が、ここ数年続いている。

体操競技の場合、男子6種目、女子5種目の器具を80cmの台の上に設営し、周りに審判席や選手席、ホストテレビカメラが余裕をもって機能するスペースの確保が必要なのである。それらの競技エリアを囲うように大きな楕円形の壁(看板広告などをあしらった壁によって仕切られる)を造り、その壁の外側全てがフォトポジションに設定されるのが常であった。しかし、今回のドイツ大会ではその壁の外側のほんの一部しかフォトポジションになっていなかった。

大会初日の1時間前にOC(組織委員会)よりフォトブリーフィングが行われた。フォトグラファーはMEDIAのカテゴリーADの他にビブス着用が義務づけられているが、その確認と撮影エリアの再確認が行われた。内容は前述の「楕円形壁外の一部の指定エリアと客席に設けたフォトポジションでのみ撮影せよ」と。ただし、どのエリアも図面上で取りあえず確保したという場所で、その場に立てば、いろいろな障害物や天井のライトを下から煽るような場所であったりする。ここはダメ!ここもダメ!とノーゴーゾーンの説明が目立った。

あげくには、ルール違反者は、即刻ADを取り上げ今後二度とFIG主催大会の取材はできなくするペナルティーを科すので、「FIGとOCの係の指示は絶対だ」と釘をさす。

確かに野放しでは大会運営などできないだろうが、「この指定場所から何を撮れというのだろうか?」と頭をひねるようなエリアも、図面上では大きな顔をして“フォトポジション”と幅を利かせている。

当然、既に現場を見ているフォトグラファーから質問が出る。
「観客席は使って良いか?」
「通路は?」
「この場所は?じゃ、ここは?」と。

最終的には、指定フォトポジション以外では、観客席は空いていたら撮影可ではあるが客が来たら退くようにとの回答。通路は、立ち止まることも撮影も不可。

実際は、初日からほぼ満席で観客とフォトグラファーとのトラブルが至るところであった。残る撮影場所はといえば…。撮影不可の通路しかない。しかし、これがまた警備のトップは融通が利かない堅物。通路も後ろが壁で誰にも迷惑をかけない場所であっても、「通路はダメ!立ち止まってもダメ。どきなさい!」と、何人ものスタッフを引き連れた上に怖い顔と鋭い目で、ド迫力で迫ってくるのだ(まぁ、現場でよく遭遇するシーンでもある)。

でも、人は学習するものである。通路で撮りながらも会場を見渡すと、誰もいない通路が必ずある。そこがあの頭の固い警備が見回っているポイントなのだから、スッキリしている通路に向かって会場を移動したすきを狙って撮影するのだ。しかし、敵も考え学習するわけで。見回り方向を右回りから左回りにしたり、突然左右同時に見回ったりする、イタチごっこだ。

まるで「鬼ごっこ」で捕まらないように逃げ回った、そんな世界選手権だった。

アイリーン女史がオフィシャルだったころは、こんな「鬼ごっこ」をすることもなかったし、限られたフォトポジションにENGが陣取ることも被写体とフォトグラファーの間の障害物(電光掲示板や看板・ディスプレイのお花など)も彼女のお陰で取り除かれていた。実際に現場に立ち、フォトグラファーの目で皆のために働いてくれていたのがアイリーン女史だった。

現場で配られるメディアガイドには、今も同じような場所に「フォトポジション」はある。しかし、それを「使える」生きたフォトポジションとし、現場がわかる人で「戦ってくれる人」が、残念ながらFIGにいなくなってしまったのも事実である。
「普通」「あたりまえ」ということが、どんなにありがたいことなのかを痛感するこのごろだ。

今後、もっとやりにくいFIG主催の大会現場になってしまうのだろうか…。いや、それでも私はもう少しだけあきらめずにFIGに現場の声を伝えたいと思う。この小さな声さえ消えたら、とりあえず図面にある「フォトポジション」が「あたりまえ」の定位置になってしまう…。それだけは避けたいからだ。

1
Photo by TAKEUCHI,Rimako

2
世界選手権の会場。国際体操連盟&組織委員会とフォトグラファーの間でフォトポジションでもめた
Photo by TAKEUCHI,Rimako

1

2

V バレーボール 分科会
olley ball Division

2007 - 08
バレーボール界の現況

宮崎恵理
MIYAZAKI,Eri

全日本のバレーボール、特に女子は、TVのゴールデンタイムに放映されるスポーツの一つである。近年、女性アスリートの活躍は日本のお茶の間を賑わせているが、例えば、ゴルフやフィギュアスケートなど、個人種目が目立つ。バレーボールは、女子チームスポーツの一番人気を誇っている。

昨年は、日本でワールドカップが開催された。出場12カ国が総当たり戦で試合を行い、上位3チームには北京五輪への切符が与えられる。どの国も、目の色を変えて大会に臨んでいたのだった。

バレーボールでは、ワールドグランドチャンピオンズカップ、世界選手権、そしてワールドカップが、1年ごとに順番に開催される。さらに、夏季には、ワールドグランプリ(男子はワールドリーグ)が毎年行われている。これらの世界大会のほとんどが日本で行われ、その模様がゴールデンタイムに放映される。開催国有利という条件は、どんなスポーツにもあることだが、日本で開催される大会の試合スケジュールについては、会場に足を運ぶ観客動員や、TV局の放映スケジュールに合わせて、日本戦はすべてその日の最後に組まれている。

昨今、アイドルタレントやお笑い芸人を競技会場に招いてパフォーマンスを披露させたり、選手へのインタビューをさせるなどして、スポーツ競技がエンターテインメント化しているが、その原形を構築したのは、バレーボールだ。日本戦が開始される直前に、アイドルがコートを舞台に歌い踊る姿は、今やバレーボールには不可欠な要素になっている。アイドル目的で高額なアリーナチケットを購入したティーンエージャーの中には、その後に行われるバレーボールの試合を観て、バレーボールにも興味・関心をもち始めるようになったというファンもいる。日本でのバレーボール人気は、テレビ局のおかげで維持されているといっても過言ではないのだ。

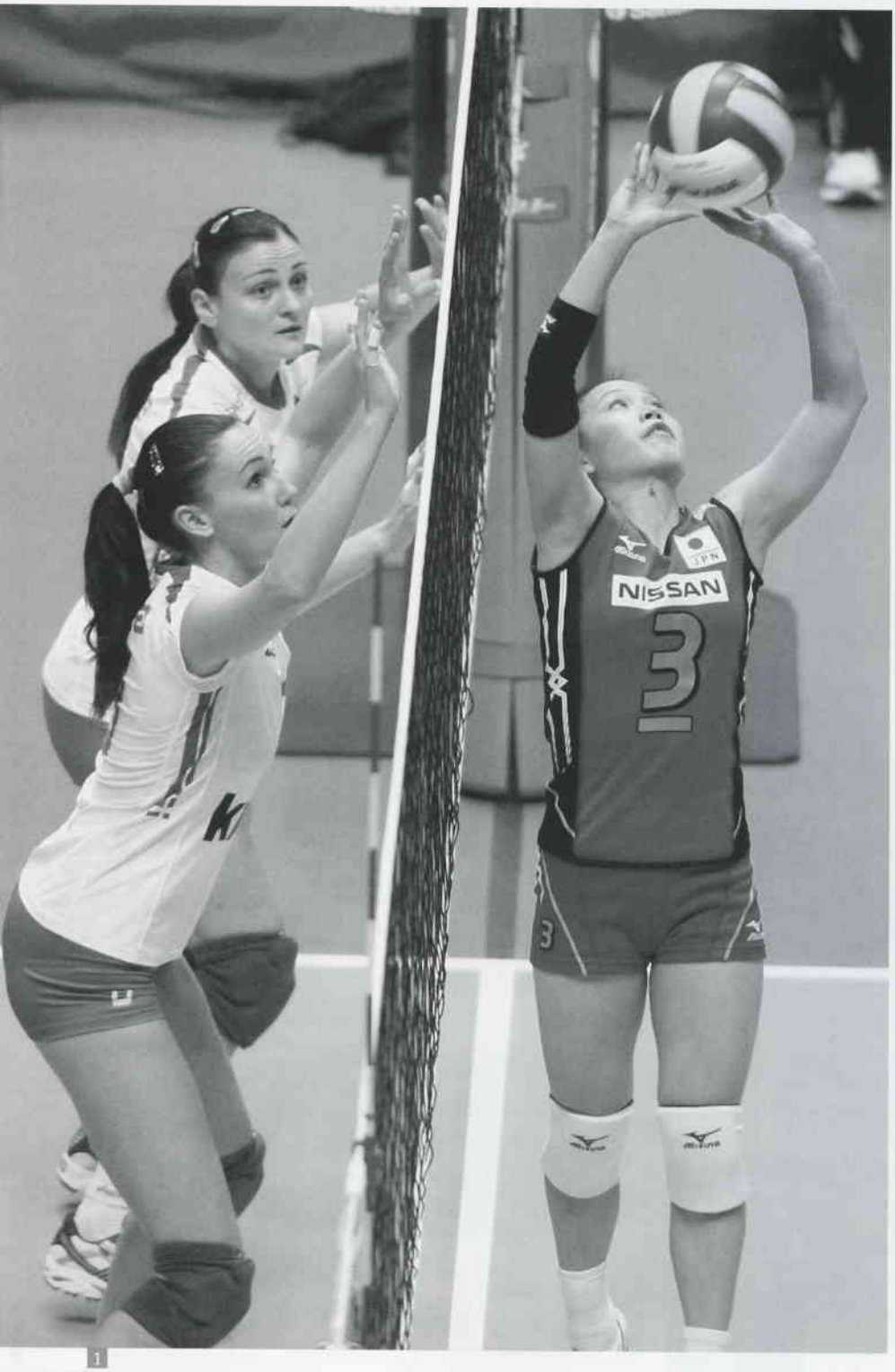
とはいえ、例えば、一昨年行われた世界選手権で、女子決勝戦であるブラジルvs.ロシア戦のカードを、5・6位決定戦である日本戦の前に行うというのは、いかがなものだろう。日本のファンにとっては、決勝がどうなろうと関係ない、日本戦だけが見られればいい、という認識でいるとすれば、いささか、視聴者を軽んじているように思われる。バレーボール会場でいつも顔を合わせるAJPS会員の間でよく交わされる会話だが、これが4年に一度のサッカーのワールドカップであれば、世界じゅうのサッカーファンが、5・6位決定戦よりも前に決勝戦を行うことを認めないだろう。日本でのサッカー人気が、日本代表の応援だけではなくヨーロッパ選手権など世界へと拡大していった背景には、メディアがサッカーファンの見る目を育てたという側面が大きい、と考える。

北京オリンピックを見据え、昨年のワールドカップにも世界各国から多数のメディアが集まっていた。その一方で、バレーボールはコンペティションではなくイベントと評するメディア(TV以外)も少なくない。バレーボールの世界でも、イタリア・セリエAやヨーロッパ選手権は、白熱している。ひと時代前のように全日本だけが、バレーボールの魅力のすべてではない。メディアのみなさん、そろそろ、サッカーのように本物のバレーボール・サポーターを育てていきませんか。

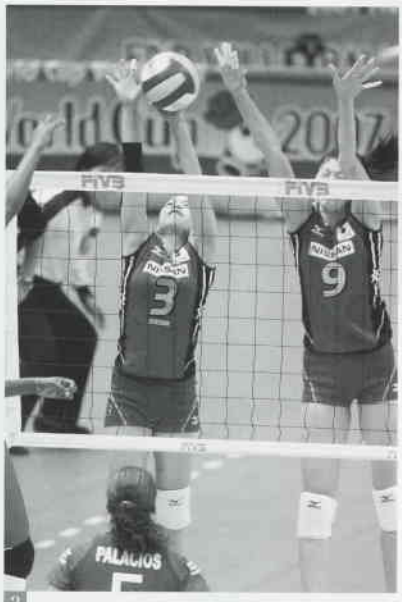
1
FIVBワールドカップ2007から。トスをあげる竹下佳江
Photo by SAKAMOTO,Kiyoshi

2
FIVBワールドカップ2007から。ブロックに入る竹下佳江(左)、杉山祥子
Photo by SAKAMOTO,Kiyoshi

3
FIVBワールドカップ2007から。スパイクを打つ栗原恵
Photo by SAKAMOTO,Kiyoshi



1

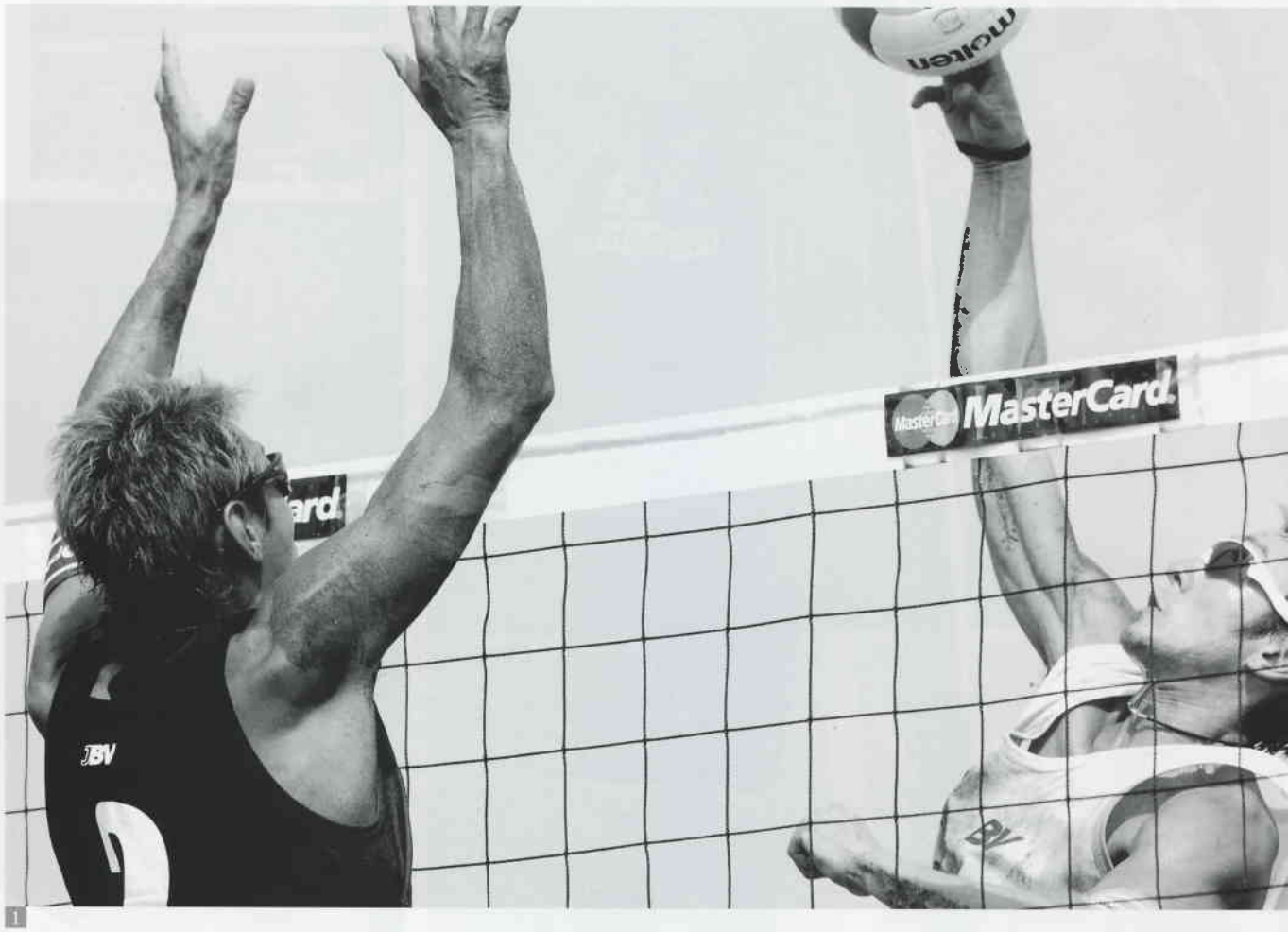


2

3

Vバレーボール（ビーチバレー）分科会

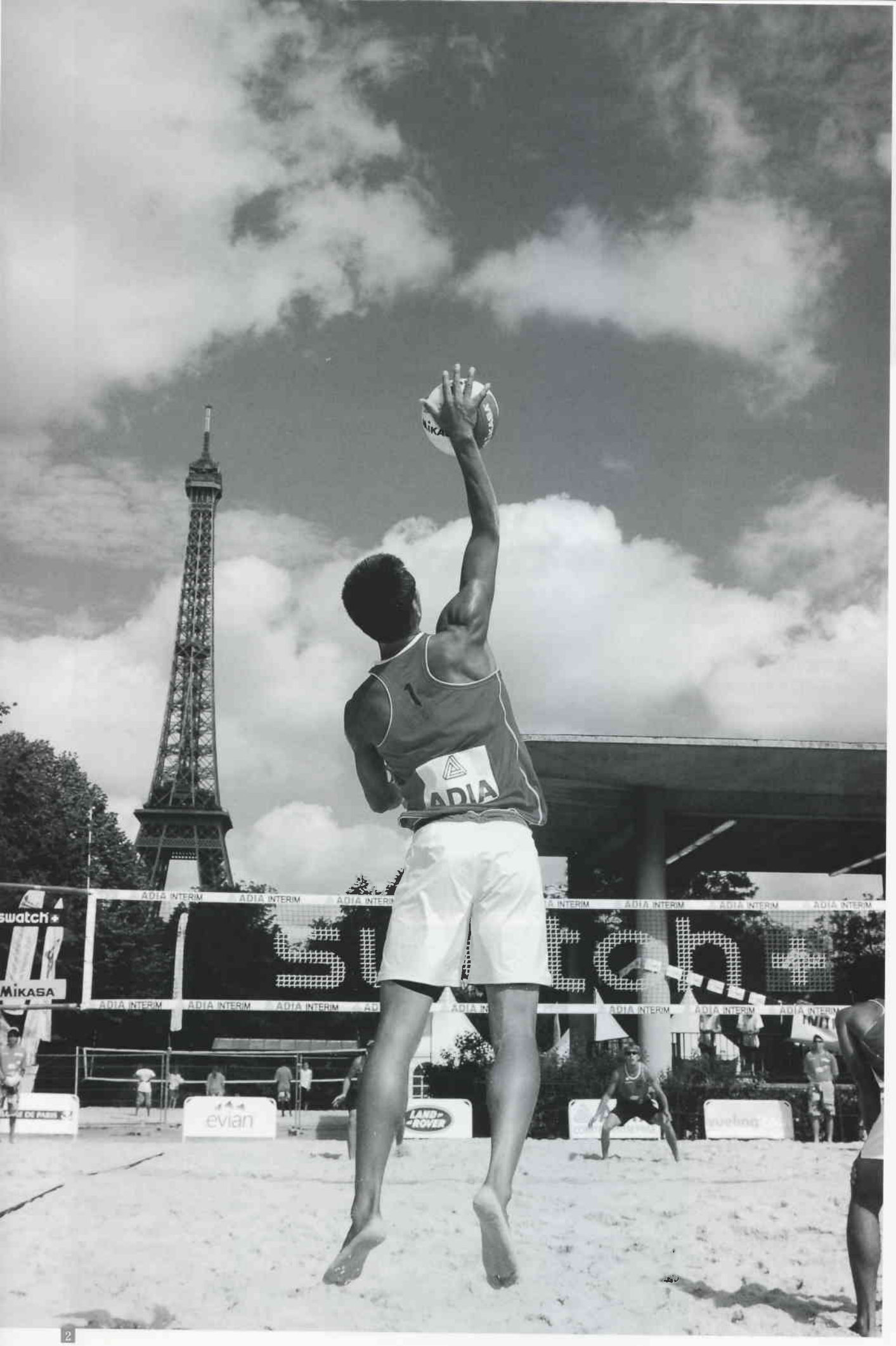
Volley ball Division(Beach Volley ball)



1

1
ワールドツアー男子から
Photo by MAKINO,Ryutaro

2
ワールドツアーパリ大会から。
エッフェル塔を望む
Photo by MAKINO,Ryutaro



2

Bバスケットボール分科会
Basketball Division

強化策の“迷走”ぶりを露呈した五輪予選

小永吉陽子
KONAGAYOSHI,Yoko

■男女ともに五輪切符獲得ならず

迷走――。こんなタイトルをつけるのは情けないが、2007年のバスケットボール界は散々な成績の1年だった。大きなイベントは、女子は6月に韓国で、男子は7～8月に徳島市で開催された北京五輪アジア地区予選。残念ながらどちらも出場権をつかめなかったうえに、強化の方向性を見失っていた。

五輪への出場枠は12。これまでは世界選手権の成績によって各大陸に出場枠が振り分けられており、アテネ五輪時、アジアには男子は1枠しかないものの、女子に3つの枠があった。しかし、今年度より予選方式が変更。五輪開催地と世界選手権優勝国に出場権が与えられるほかは、5大陸の各チャンピオンと、大陸予選に敗れたチーム間で争われる世界予選方式（08年の五輪直前に開催）に変更された。つまり、アジアの優勝国しか枠が与えられないことになる。

しかしながら、そんな厳しい状況下にあって、アジア各国はチャンスの時を迎えていた。なぜならば、バスケットは男女とも長身選手が揃う中国がアジアの雄として君臨しているが、その中国が開催地として出場権を持っているからだ。最大のライバルを不在にして戦える“千載一遇”のチャンスがやってきたのだ。

だが、その絶好の年に日本は、女子3位、男子8位と振るわなかった。

女子は準決勝の中国戦で惨敗。出場権を持っている中国は経験の浅い若手チームで臨んできたが、日本はこの若い中国の勢いの前に、無策のまま敗れたのだ。3位決定戦では、チャイニーズ・タイペイを接戦の末に下して銅メダルを獲得し、アジア第1代表として五輪世界予選の切符を手にすることはできた。しかし、勝負がかかった場面での惨敗ぶりに、選手選考・強化策、すべてを見直さなくてはならないという声がしきりに上がった。

男子は女子以上にふがいない成績だった。06年、日本で開催された世界選手権では、決勝トーナメント進出まであと一歩のところまで迫る、これまでにない健闘を見せた。その背景には、クロアチアから招聘したジェリコ・パブリセヴィッチコーチが4年間にわたって厳しい体力アップを図った“フィジカル強化”が芽を出してのことだった。

しかし、日本協会は世界選手権で1次ラウンド突破を果たせなかったパブリセヴィッチコーチを無情にも解任。結果からいって、解任劇はしかたのないことだったかもしれない。しかし、4年間の継続強化をしてもなお世界と戦うには時間が足りなかったこと、そして、これまでにない強化策が予選突破まであと一歩の成果を出したとすれば、パブリセヴィッチ氏が行ったフィジカル強化は継続されていくべきだったのだ。

新しい日本代表のコーチとなったのは、トップリーグJBLの強豪・アイシンの鈴木貴美一氏。鈴木コーチのスタイルはコンビネーションプレーに重点を置くもの。細かい調整練習に時間を割いた鈴木氏のスタイルでは体力不足が目立ち、ジェリコ以前の強化に逆戻りした感は否めなかった。その結果、大会を乗り切るスタミナが不足し、2次リーグで力尽きてしまったのだ。

世界を見据えたパブリセヴィッチの4年間の強化策に対し、日本協会が行ったのは何のビジョンもない付け焼刃の強化。それを大事な五輪予選で露呈してしまうなんて――。いみじくも、男子も女子も、千載一遇のアジア枠を逃すというあまりにも“高い授業料”を払って、ようやくその失態に気がついたのだった。

日本のバスケットボール界は今、ジュニア世代から日本代表まで連なる強化プランを見直さなくてはならない。特にアジア8位と出遅れた男子は、今シーズンよりJBLがプロ化を前提としてリニューアルスタート。3シーズン目を迎えたbjリーグとともに、切磋琢磨しながら力をつけていくことが強化のスタートとなる。

※

2007年度、バスケットボール部会は、男女の五輪予選にて、加藤誠夫カメラマンと、私ことライターの小永吉が大会中の速報報道、大会後の誌面報道に追われ、睡眠時間が削られる激務の日々を送った。この疲れは勝利でしか癒されることはない。今はただ、今年夏に残されている女子の五輪出場の可能性を祈るばかり。この原稿を書いている07年秋深しころ――バスケットボール部会は男女の強化の土台となる国内リーグ取材の真っ只中だ。

1
女子のオリンピック・アジア予選は、韓国の仁川で開催された。日本は準決勝で中国に敗れ、3決定戦で中華台北に勝ち3位。今年6月に行われる世界最終予選に北京への望みを賭ける
Photo by KATO,Yoshio

2
男子のオリンピック・アジア予選は、7月から8月にかけて日本の徳島で開催された。地元の利を生かせず日本は北京への道を閉ざされた
Photo by KATO,Yoshio

1

2

Rラグビー分科会
Rugby football Division

ラグビーワールドカップ2007フランス大会

井田新輔
IDA,Shinsuke

第6回ラグビーワールドカップ2007フランス大会は9月7日、パリ近郊サンドニのスタッド・ドゥ・フランスでのフランス対アルゼンチン戦で開幕し、10月20日の決勝戦までフランス各地とウェールズ、スコットランドで全48試合が開催され、ウエブエリスカップは自国開催の95年大会以来2度目の優勝を果たした南アフリカの手に渡された

■アレ　ジャポン　日本代表4試合の闘い

2006年10月、NZオールブラックスの名ウイングで、前回2003年大会ではイタリア代表を率いたジョン・カーワンをヘッドコーチに迎えた日本代表は、11月に香港で開催されたアジア地区最終予選で韓国を完封で下し本大会への出場権を獲得した。

日本はオーストラリア、フィジー、ウェールズ、カナダと対戦するプールBに属した。今大会、フランス各地とウェールズを最短で中3日で4会場を転戦するという厳しいスケジュールのため、その対策として若手主体のチームと、接戦を見込める2戦目のフィジー戦にあてる主力中心のメンバーという2チーム体制で大会序盤に臨み、9月8日、リヨンでの初戦となるオーストラリア戦では前者のチームで試合に臨んだ。

この試合、前半こそオーストラリアの得点を21点に抑えたものの、後半はゲームキャプテンのFL佐々木隆道を負傷で欠き、優勝候補のオーストラリアに攻守ともに圧倒され、3-91の大敗を喫した。

トゥールーズに移動して迎えた第2戦のフィジー戦では本来のベストメンバーで臨み、前半フィジーに先制トライを奪われたものの、キッカーのCTB大西将太郎が確実にPGを決め9-10でハーフタイムを迎えた。

後半、両チームとも一進一退の攻防を続け、日本も3トライを挙げさらに終了間際地元のラグビーファンの声援を背に相手陣内で連続攻撃を見せた。力及ばず31-35で敗れたものの、次の試合への期待を抱かせる結果となった。

ドーバー海峡を越えカーディフに移動しておこなわれたウェールズとの第3戦は前半、今大会屈指の好トライと評価されたWTB遠藤幸佑のトライもあったが力の差は否めず、後半はウェールズに得点を重ねられ18-72で敗れ、この時点で決勝トーナメントへの進出はほぼ絶たれた。

事実上の最終戦となった中4日で迎えたボルドーでのカナダ戦は前半、ウェールズ戦に続いてWTB遠藤がトライを奪い、この大会で初めてリードを保ってハーフタイムを迎えた。

後半開始後、カナダに2トライを奪われ逆転を許したものの終盤にペースを取り戻し、ロスタイムに相手陣内深く攻め込んだ日本は連続攻撃から途中交代したWTB平浩二が右隅にトライを決め、難しい角度からのPGをCTB大西が落ち着いて決めて12-12の同点に追いつきノーサイドを迎えた。

日本は3敗1分けのプール4位でこの大会を終え、フランスを後にした。

大会終了後の10月26日、日本協会はカーワンヘッドコーチの続投を発表した。

今大会のカーワンジャパンは、健闘は見せたものの目標であった2勝を挙げることはできず、次への課題を残す結果となった。

これまでは監督の交代などでW杯後の継続したチームづくりは難しいケースが多かったが、同ヘッドコーチの留任により今大会での総括が図れるとともに、現在おこなわれているトップリーグの若手選手を海外に派遣し経験を積ませるATQプロジェクトなどともシンクロした、次回の2011年大会に向けて継続した代表チームの強化がおこなわれるかたちとなった。

今回、短期間で一定の成果を挙げた同ヘッドコーチの手腕がこれからあらためて問われるし、また今後の日本代表のステップアップにも期待したい。

■メディアのワールドカップ2007

今回の大会の取材申請は大会組織委のホームページにアップされた申請フォーマットに記入の上、3月より5月中旬までの受付期間に送信する形でおこなわれた。

フォーマットを送信後、パスワードとIDナンバーを含めた申請受理の通知が翌日までにメールで届き、申請時にエントリーした取材希望試合の可否については7月下旬に連絡があった。

今回の大会ではメディアに課せられた制約がこれまでの大会と比較して多く、いくつか例を挙げるとフォトグラファーの場合、交付されるメディアチケットの撮影ポジションの指定はこれまでの大会ではゴール裏のサイドの指定のみで、指定されたサイドの中では自由にポジションを決められたが、今回はゴール裏に人数分に応じて番号が記入された長いすが設置されていて、各自のチケットに表示された番号の席からの撮影と決められていた。

そのため、自国の攻撃するサイドで

撮影したいときは試合開始前に相手国のフォトグラファーに声をかけて、ハーフタイムでチケットを交換する交渉をすることが必要であった。

ピッチを自由に移動撮影が可能なロービング・ビブスを交付される枚数は、通信社と大会オフィシャルのエージェントを中心に1会場最大15枚までとなっていて、それ以外のケースで交付されるのは、当該国メディアに与えられる2枚のみであった。

ペン取材の場合もやはり制約が多く、試合後におこなわれるプレスカンファレンスの会場に入るには試合時とは別のチケットが必要で、ミックスゾーンで選手のインタビューを取るにはさらに違うものが必要という具合。特に決勝トーナメントでは当該国以外に交付される枚数は限られ、多くの記者が試合後のカンファレンスをプレスルームのモニターで監督、キャプテンのインタビューを聞くという形で、質問だけでなく肉声のコメントを取るということすら難しかった。

また、代表チームのトレーニングでもプレス向けに公開する時間が練習開始後の20分までと決められていて、その時間になると多少の例外はあったが会場の外に誘導されてしまい、撮影は言うに及ばず練習の内容を知ることも困難で、終日練習を公開する日は規定により義務付けられていたものの、それだけではフラストレーションのたまる結果となった。

メデイア、とくにフリーランスで活動しているフォトグラファー、ライターにとっての関心事は、大会での取材パスの交付であろう。

ラグビーはワールドカップクラスの大会でもこれまでは取材申請を出せばほぼ受理されてきたが、今大会では試合会場のキャパシティー、あるいは媒体のカテゴリーの関係か、予選プールの試合でも当該国のメディアであってもウエーティングリストにまわされる、あるいは却下される例がいくつか見受けられた。

それが如実にあらわれたのが、決勝トーナメントの準決勝以降の4試合の申請であった。

準決勝以降の取材申請はマルセイユとカーディフでおこなわれた準々決勝の後に申請する方法がとられたが、進出した4カ国のメディアがそれぞれの試合を集中してエントリーしたため、3位決定戦のおこなわれるパルク・デ・プランスではスタジアムの記者席のキャパシティーをオーバーしたためか、三大新聞あるいは専門誌に所属する記者であってもウエーティングにまわされる、あるいは申請自体を却下される例があった。

幸いメディアデスクの担当者とのメールのやり取りや直談判が功を奏して結果的には申請を提出した全員がパスを確保することができたが、これまでのように申請をエントリーすれば無条件で受理されるという認識は改める時期に来たといえよう。

今後は申請の時点でエントリーした発表媒体あるいは取材キャリアについても問われるケースが増えるだろうし、申請後のNO SHOWや無断キャンセルについても今まで以上にシビアな対応になるだろう。

そのためには取材媒体の依頼書やクレジットの入った刊行物を事前に準備し、申請受理の前後を問わず必要に応じて大会組織委のメディア担当にコンタクトを取り送付できるようにするなど、プレスカードを確保するための対策がより必要になってくると思われる。

オリンピック、サッカーワールドカップに次ぐスポーツイベントに成長したラグビーワールドカップだが、大会自体だけでなくメディアを取り巻く環境も変化している。

開幕前に大会組織委と通信社の間に持ち上がった、試合中にインターネットで配信可能な写真の枚数をめぐる対立もひとつのあらわれだといえるだろう。

今大会の問題点でも、自分たちが声を上げてもそれが反映されることは残念ながら多くなかった。だが、状況を読みながら手を打って、よりスムーズな取材活動を目指すことは可能であるし、また必要だと思う。

日本と南アフリカも誘致活動をおこなった2011年大会は、ニュージーランドで開催される。

ラグビー大国であるが大きなスポーツイベントを開催した経験のない同国での開催は、大会の盛り上がりに対する期待と同様、交通アクセスや宿泊施設などの受け入れ環境に一抹の不安も抱かせる。

大会誘致のときのスローガンであった「400万人のスタジアム」に大きな期待を寄せるとともに、お手並み拝見というやや斜に構えた見方をしているのは私だけではないかもしれない。

3回ぶりにワールドカップを手にした南アフリカ
Photo by IDA,Shinsuke

2007AJPS 新入会員報道写真集
地球にスポーツ III

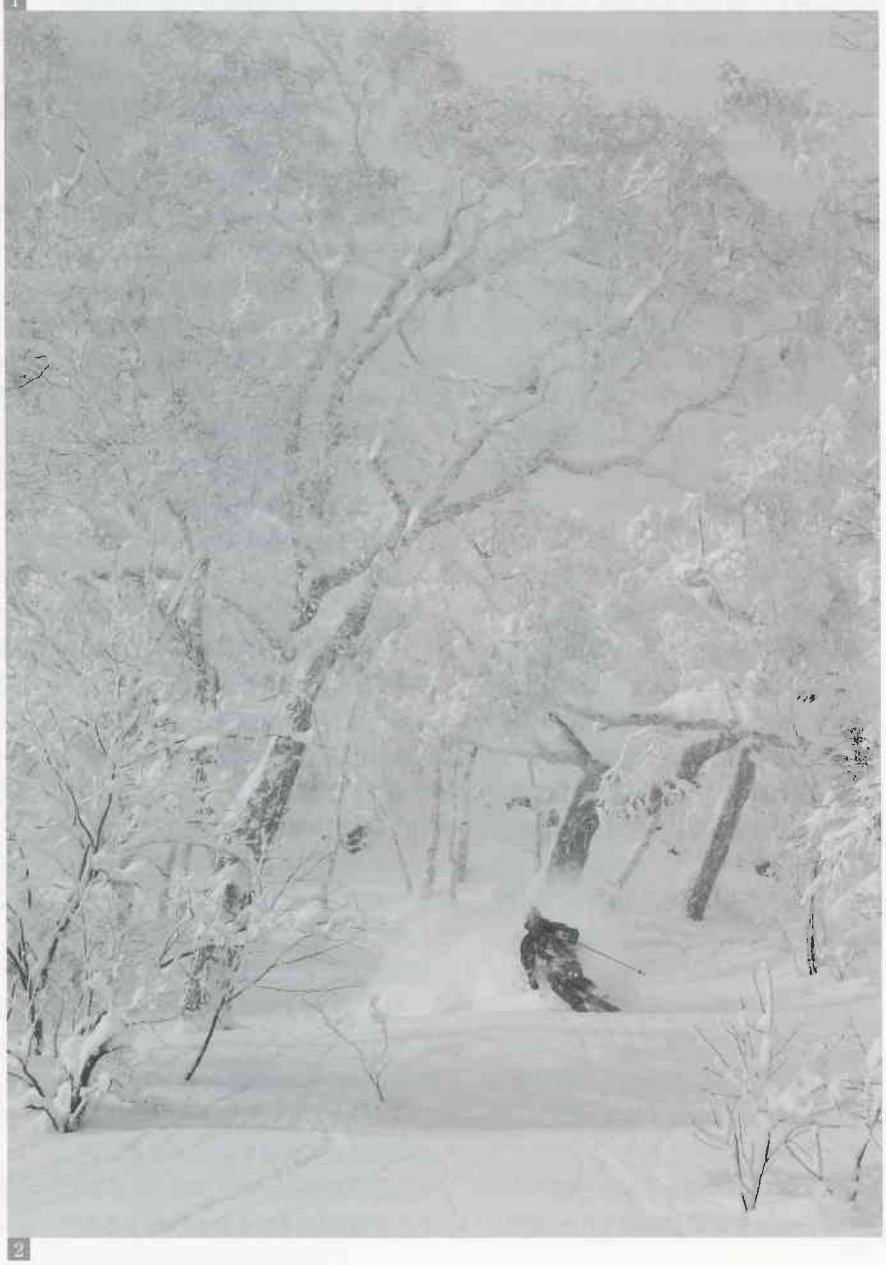
2007 New face of AJPS

KOBASHI, Joe

小橋　城

1974 年東京生まれ。
1999 年、東京写真芸術学校卒業後、スポーツ写真家の水谷章人に師事。
2002 年からフリーランスとして活動。雑誌、広告などで作品を発表。
人間と自然が一体化できるスポーツをこれからも追っていきたい。

1



2

1
Skier　久我　博道
Location　火打山

2
Skier　秋庭　将之
Location　剣岳

3
Skier　山木　匡浩
Location　手稲

3

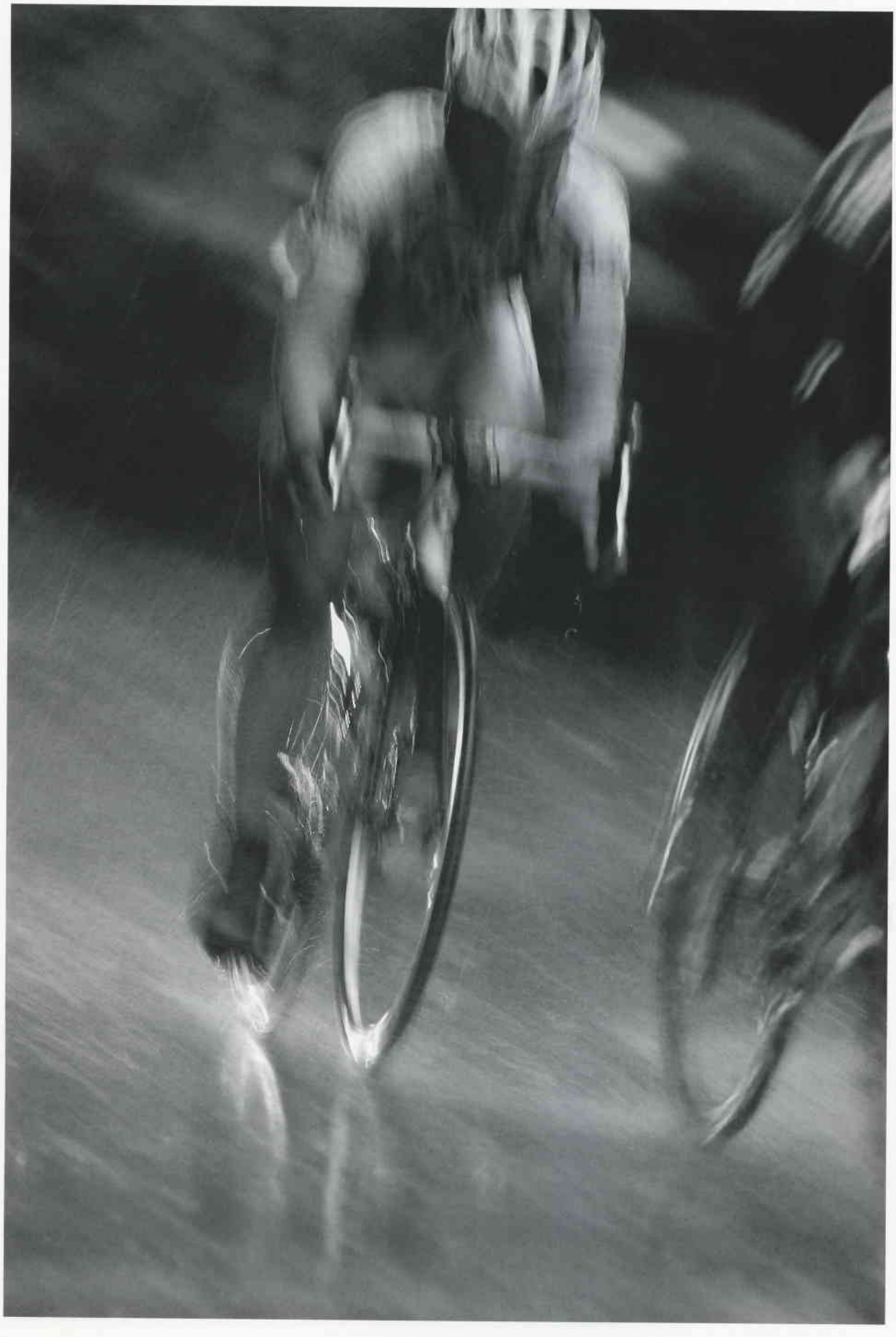
2007AJPS 新入会員報道写真集
地球にスポーツ III

2007 New face of AJPS

HAGIWARA, Toshikazu

萩原利一

1968年　静岡県出身。
写真とはまったく関係ない会社で8年のサラリーマン生活。
子供のころから好きだった車の写真を撮りはじめ気がついたら辞表を出していた。
それから波乱のカメラマン人生がスタート。
毎週のようにサーキットに通う生活が何年か続く。
最近では撮影の幅を広げるためサッカーなど他のジャンルも積極的に取材している。
趣味はサイクリング。
なんちゃってパンターニなのに坂は苦手。
専ら荒川サイクリングロードなど平坦地でトレーニング中。



あなたにとってのスポーツ名場面とは？

Photo by KISHIMOTO,Tsutomu

「BSあなたが選ぶスポーツ名場面集100選」を見て

白髭隆幸
SHIRAHIGE,Takayuki

さる2月24日、NHK・BS1でスポーツの世界に身を置くものにとって興味深い番組が放送された。

「BSあなたが選ぶスポーツ名場面集100戦」である。NHKが視聴者に呼びかけ約半年間5万3927票の応募によって選ばれた結果だという。なんと応募された名場面は917位まであったそうだ。当日は2回にわけ計5時間にわたり放送された。3月24日から26日までNHK総合で再放送されたので、そちらで御覧になった方も多いかもしれない。

結果、第1位はトリノ冬季オリンピックのフィギュアスケートの荒川静香の金メダルだった。長年スポーツシーンを見てきた筆者にとっては、意外といえば意外だし、順当だといえば順当な結果。やはり、時間が経てば印象は薄まるし、正直いうと

「あちらの方が名場面では？」と思える節もある。が、それは多くの一般視聴者が選んだ結果だから認めざるを得ない。

スポーツジャーナリストの一人として、この100選のシーンを思い出すと、順位はともかく、ある意味で日本のスポーツ史を実感することができる。番組の中では、一般視聴者を意識してかタレントさんのおしゃべりに時間を裂き過ぎたきらいがあった。もう少し一場面一場面を長く見せてほしかったし、著作権の都合で写真だけでお茶を濁した場面があったのは残念。天下のNHKとしては、すべてクリアーにして名場面を放送してほしかった。

人それぞれ、人生いろいろだから、一人ひとりによって名場面はちがってくるだろう。選ばれた第1位から100位までの名場面を並べて、

「あなたにとってのスポーツ名場面はなんだった」のか、思い出してみるのも良いだろう。

順位	競 技	年	大 会	記 事
1	フィギュアスケート	2006	トリノ冬季オリンピック	荒川静香金メダル
2	野球	2006	全国高校選手権決勝	早実 vs. 駒大苫小牧
3	陸上競技	2000	シドニーオリンピック	高橋尚子金メダル
4	スキー	1988	長野冬季オリンピック	ジャンプ団体逆転金メダル
5	フィギュアスケート	2007	世界選手権	高橋大輔銀メダル
6	野球	1972	プロ野球巨人最終戦	長嶋茂雄引退
7	野球	2007	全国高校選手権決勝	佐賀北優勝
8	野球	2006	ワールドベースボールクラシック	日本代表が世界一に
9	フィギュアスケート	2007	世界選手権	安藤美姫金メダル
10	野球	1977	巨人 vs. ヤクルト	王貞治ホームラン 756 号世界新樹立
11	バレーボール	1964	東京オリンピック	東洋の魔女金メダル
12	サッカー	1997	ワールドカップ最終予選	日本代表ジョホールバールの勝利
13	野球	2007	巨人 vs.	原監督 4 年ぶりセリーグ優勝
14	ゴルフ	2007	KSB カップ	石川遼、最年少プロツアー優勝
15	陸上競技	2004	アテネオリンピック	野口みずき金メダル
16	フィギュアスケート	2006	全日本選手権	浅田真央、初優勝
17	オートバイ	1996	世界ロードレース日本グランプリ	阿部典史 500cc クラス初優勝
18	野球	2004	全国高校選手権決勝	駒大苫小牧、北海道勢として初優勝
19	野球	1997	全国高校選手権準決勝	横浜・松坂、PL 学園を延長 17 回で破る
20	サッカー	1993	ワールドカップ最終予選	ドーハの悲劇（イラク戦引き分け）
21	フィギュアスケート	2002	世界ジュニア選手権	高橋大輔、日本男子初優勝
22	野球	1985	阪神 vs. 巨人	バース、掛布、岡田 3 連続ホームラン
23	フィギュアスケート	1992	アルベールビル冬季オリンピック	伊藤みどりトリプルアクセルで銀メダル
24	ゴルフ	1997	マスターズ	タイガー・ウッズ 21 歳最年少優勝
25	野球	2006	日本シリーズ	日本ハム 44 年ぶり日本一
26	野球	2007	MLB オールスター	イチロー史上初ランニングホームラン
27	野球	2007	日本シリーズ	ドラゴンズ 53 年ぶりの日本一
28	スキー	1972	札幌冬季オリンピック	70m 級ジャンプで日の丸飛行隊メダル独占
29	野球	2004	MLB	イチロー、シーズン最多 262 安打新記録
30	体操	2004	アテネオリンピック	男子団体 28 年ぶり優勝
31	ゴルフ	1983	ハワイアンオープン	青木、イーグルショットで逆転優勝
32	柔道	2004	アテネオリンピック	谷亮子 2 連覇
33	野球	1969	全国高校選手権決勝	松山商業 vs 三沢、18 回延長再試合
34	野球	1975	日本シリーズ	赤ヘル旋風、広島 26 年目の優勝
35	ゴルフ	2001	PGA ミルウォーキーオープン	丸山茂樹、全米ツアーで初勝利
36	サッカー	2002	ワールドカップ対ロシア戦	日本代表初勝利
37	野球	2001	MLB	野茂英雄 2 度目のノーヒットノーラン
38	野球	1959	巨人 vs. 阪神戦	長嶋茂雄、天覧ホームラン
39	野球	1979	日本シリーズ	江夏豊の 21 球
40	柔道	1984	ロサンゼルスオリンピック	山下泰裕金メダル
41	野球	1995	MLB	野茂英雄初登板
42	相撲	1991	大相撲夏場所	貴花田 vs. 千代の富士（引退）
43	野球	2003	日本シリーズ	阪神タイガース優勝
44	野球	1994	セリーグ	長嶋巨人優勝、中日同率対決
	野球	2005	全国高校選手権決勝	駒大苫小牧、2 連覇達成
46	野球	2006	プロ野球パ・リーグ	田中将大が高卒ルーキーで 10 勝
47	ゴルフ	2005	ワールドカップ	宮里藍・北見瑠衣が優勝
48	野球	1995	MLB オールスター	野茂英雄先発
49	野球	1998	全国高校選手権決勝	松坂大輔、ノーヒットノーラン
	サッカー	2002	ワールドカップ対ベルギー戦	鈴木隆行がゴール、初勝ち点
51	スピードスケート	1998	長野冬季オリンピック	男子 500m で清水宏哉保金メダル
52	野球	1958	日本シリーズ	神さま、仏さま、稲尾さま。西鉄 3 連覇
53	ボクシング	2006	世界 WBA ライトフライ級王座決定戦	亀田興毅、世界チャンピオンに
54	野球	1971	プロ野球オールスター戦	江夏豊の 9 連続奪三振
55	競馬	2005	菊花賞	ディープインパクト無敗の三冠王
56	相撲	2001	大相撲夏場所優勝決定戦	けがをおして貴乃花が武蔵丸を破る
57	野球	1979	全国高校選手権	箕島 vs. 星稜、延長 18 回の死闘
58	バレーボール	1972	ミュンヘンオリンピック	男子準決勝、日本 vs. ブルガリア
59	サッカー	1998	イタリア・セリエ A	中田英寿、デビュー戦で 2 ゴール
60	野球	2007	プロ野球パ・リーグ	日本ハム 2 連覇
	フィギュアスケート	1972	札幌冬季オリンピック	ジャネット・リン銅メダル
62	ゴルフ	1980	全米オープン	青木功、J. ニクラウスの名勝負
63	野球	1958	プロ野球開幕戦・巨人 vs. 国鉄	長嶋茂雄、4 三振デビュー
64	野球	2006	プロ野球パ・リーグプレーオフ	日本ハム、福岡にサヨナラ勝ち
65	陸上競技	1964	東京オリンピック	マラソンで円谷幸吉が銅メダル
66	野球	2000	日本シリーズ	長嶋巨人、王ダイエーを破って日本一
67	水泳	1992	バルセロナオリンピック	岩崎恭子、女子 200m 平泳ぎで金メダル
68	サッカー	1999	天皇杯決勝	横浜フリューゲルス、最後の試合で優勝
69	サッカー	2006	J リーグ最終戦、浦和 vs. ガンバ大阪	浦和レッズ初優勝
	野球	2005	ヤクルト vs. 広島	古田敦也、大卒選手で初の 2000 本安打達成
71	野球	2004	巨人 vs. ヤクルト	工藤公康、最年長で 200 勝達成
72	フィギュアスケート	1984	サラエボ冬季オリンピック	アイスダンス、トービル&ディーン組の演技
73	競馬	1990	有馬記念	オグリキャップ、ラストランで優勝
74	サッカー	2006	ワールドカップ決勝	ジダン、頭突きでレッドカード退場
75	野球	1987	巨人 vs. 広島	江川卓、通産 135 勝で引退
76	ゴルフ	1987	全米女子オープン	岡本綾子、プレーオフの末敗れる
77	野球	1988	近鉄 vs. ロッテ	近鉄、最終戦で引き分け優勝を逃す
78	陸上競技	2007	世界選手権	日本男子 4 × 100m リレー 5 位に
79	野球	2006	阪神 vs. 巨人	金本知憲 1160 試合連続フルイニング出場
80	スキー	1998	長野冬季オリンピック	女子モーグルで里谷多英が金メダル
	野球	1994	プロ野球パ・リーグ	イチロー、プロ野球初の年間 200 本安打
82	野球	1969	巨人 vs 中日	金田正一、通産 400 勝達成
83	水泳	1988	ソウルオリンピック	鈴木大地、100m 背泳で金メダル
84	野球	1985	日本シリーズ	阪神タイガース、悲願の日本一達成
	野球	1983	全国高校選手権	PL 学園、清原、桑田がデビュー
86	野球	1998	西武 vs. 日本ハム	松坂大輔、プロ野球初登板初勝利
87	サッカー	2004	アジアカップ準決勝	川口能活、PK 戦で神がかりの守り
88	サッカー	2007	J リーグ最終戦、鹿島 vs. 清水	鹿島、奇跡の逆転優勝
	フィギュアスケート	2005	世界ジュニア選手権	浅田真央、織田信成アベック優勝
90	卓球	2004	アテネオリンピック	福原愛、15 歳でベスト 16
91	カーリング	2006	トリノ冬季オリンピック	チーム青森、前回金メダルのイギリスに勝つ
	野球	2007	MLB	松坂大輔、メジャーデビュー
93	フィギュアスケート	2002	ソルトレイク冬季オリンピック	本田武史、メダルを逃し 4 位
94	水泳	2004	アテネオリンピック	北島康介、200m 平泳ぎで金メダル
95	サッカー	2008	天皇杯決勝	鹿島優勝
	テニス	2007	ウインブルドン	フェデラー全英シングルス 5 連覇
	野球	1962	セ・リーグ	王貞治、1 本足打法で初優勝
98	水泳	2004	アテネオリンピック	北島康介、100m 平泳ぎで金メダル
	サッカー	1986	ワールドカップ	マラドーナ 5 人抜き
100	サッカー	2004	アジアカップ決勝	日本、地元・中国を破り二連覇

Photo by TAKAHASHI Manabu

当協会員である高橋学氏の撮影した写真がＡＦＣアジアカップ2007オフィシャルフォトコンテストの最優秀作品に。

AFCアジアカップフォトコンテストにて高橋学氏の写真が最優秀作品に選ばれ、AFCのサイトに発表されました。おめでとうございます！

高橋　学 *TAKAHASHI MANABU*

[プロフィール]
1975年福島県福島市生まれ
物心着いた頃から父の影響でカメラを持っており、お祭りや鉄道等を撮りだした。
高校卒業後に専門学校東京ビジュアルアーツ入学。スポーツ観戦も好きだったため写真学科でスポーツフォトを専攻。
卒業後菅原正治氏に師事し、ジャパンスポーツに所属。
現在サッカーやスケートなどスポーツ全般を撮影している。

[主な取材歴]
1998　第13回アジア競技大会
2002　FIFAワールドカップ
2002　第14回アジア競技大会
2003　第5回冬季アジア競技大会

Last Snow　ラストスノー

木下健二
定価　2,940円
B5変形判　並製
98ページ

この雪が最後かもしれない――年々気候の変化を感じているスキーヤーは多いという。
「雪山の美しさを伝えたい」「自然と人間の共生を」。その思いを胸にした4人のトップスキーヤー（柏木義之、井山敬介、吉岡大輔、丸山貴雄）がニュージーランドの大パノラマを縦横無尽に滑走する姿を描いた映画「4ce Cut The Wind」。本人もスキーヤーでありオリンピック等の取材経験も豊富なフォトグラファー・木下健二がとらえたパウダースノーとシュプールが織り成す光と影は、まさに雪と人間の奇跡の一期一会の記録。大自然と人間がふれあう神々しい美の瞬間を伝える写真集。

目次：【プロローグ】「進化の象徴」としてのトリノの金メダル【第1章】日本で初めての冬季パラリンピック【第2章】深い雪の中で　【第3章】停滞と転換　【第4章】日立システムスキー部の「夜明け」前　【第5章】金メダル獲得プロジェクトの結実　【エピローグ】プロジェクトは続く

「心眼で射止めた金メダル」
～小林深雪と日立システムスキー部の挑戦～

宮崎恵理・著
四六判ハードカバー／288ページ
2007年12月20日、新潮社より刊行
定価：本体1500円（税別）

幼少時に光を失いながらもバイアスロン世界王者となったスキーヤーと、敢えてパラリンピックの「金」を狙い撃ちした新鋭企業チームによる一大プロジェクトの軌跡。
◇
先天性の視覚障害で幼少時に視力を失った小林深雪は、スキーの才能を見出され、長野、そしてトリノのパラリンピックでもバイアスロンの金メダリストに輝いた。音で的の位置を判断する射撃で、小林は驚異的な命中率で他国の選手を凌駕し、トリノの金を射止めたのだ。その過程には、強化プログラムをゼロから構築した日立システムスキー部の存在があった。この新進企業チームがパラリンピック金メダル獲得のため「センターポール作戦」を立ち上げ遂行したのは何故だったのか。そのプロジェクトの軌跡から、もはや「福祉の延長」という言葉では括れない最先端の障害者スポーツの世界を浮き彫りにする、異色のドキュメント。

宮本恒靖写真集「Walk on Tsuneyasu Miyamoto」
写真：スエイシナオヨシ

宮本恒靖 2nd 写真集『Walk on Tsuneyasu Miyamoto』
写真：スエイシナオヨシ
全128ページ
価格¥3,900（税込／送料別）
宮本恒靖公式サイト限定発売
発売元：（株）アスリートプラス

ザルツブルク、ニュルンベルク、湘南の3都市での撮り下ろし写真、なんとその数250点！ザルツブルクではベッドタイム風景や素晴らしい町並みを背景にストリートカジュアルでの撮影、ニュルンベルクでは、街中のみならず苦い思い出となったドイツW杯会場スタジアムでのロケを実現。また、湘南では服のまま海にジャンプし、犬と砂浜を駆けめぐるなど、今までにはない宮本選手の素顔が垣間見られる作品。それらの写真を中心に、2005年ガンバ大阪Ｊ１優勝、2006年ドイツW杯のプレー写真も交えた、宮本選手の2005年から現在までを余すことなく伝える決定版。

2008主要スポーツカレンダー

4. 4～4.10	IIHF 女子世界アイスホッケー選手権（中国・ハルピン）
4. 5～4.13	ホッケー男子世界オリンピック世界予選（岐阜・各務原）
4. 5～4. 6	柔道全日本選抜体重別選手権（福岡・国際体育館）
4.13～4.19	IIHF 世界アイスホッケー選手権ディビジョン。グループ B（札幌）
4.12～4.13	体操オリンピック第 2 次選考会（東京・代々木第 1 体育館）
4.15～4.20	水泳日本選手権（東京辰巳国際水泳場）
4.20	柔道女子全日本選手権（横浜・文化体育館）
4.29	柔道全日本選手権（東京・日本武道館）
5.17～5.25	バレーボール女子オリンピック世界予選（東京・東京体育館）
5.21～5.25	FIVB ビーチバレーワールドツアー日本大会（大阪・中之島）
5.25～6. 8	テニス全仏オープン（フランス・パリ）
5.30～6. 1	ハンドボール男子オリンピック世界予選（クロアチア）
5.31～6. 8	バレーボール男子オリンピック世界予選（東京・東京体育館）
6. 7～6.29	サッカー EURO ヨーロッパ選手権（スイス・オーストリア）
6. 9～6.29	バスケットボール女子オリンピック世界予選（スペイン・マドリッド）
6.23～7. 6	テニス全英オープン（イギリス・ロンドン）
6.26～6.29	陸上競技日本選手権（川崎・等々力競技場）
7. 9～7.13	バレーボール女子ワールドグランプリ決勝ラウンド（横浜アリーナ）
7.28～8.20	平成 20 年度全国高校総体（埼玉県各地）
8. 8～8.25	第 29 回オリンピック北京大会（中国）
8.23～8.29	日韓中ジュニア交流競技会（千葉県各地）
8.25～9. 7	テニス全米オープン（アメリカ・ニューヨーク）
9.16～9.21	バドミントン YONEX ジャパンオープン（東京体育館）
9.27～10.7	第 63 回国民体育大会（大分県各地）
12.12～12.21	サッカークラブワールドカップ（東京、横浜）

AJPS のホームページがリニュアルされ、毎日更新されています。新しいタイプのスポーツ情報源としてご活用ください。

http://www.ajps.jp

編集後記

白髭隆幸

2007 年は、夏と冬のオリンピックの中間年。大阪で世界陸上選手権が開催され、秋にはフランスを中心にラグビーのワールドカップが開催されました。この 2 競技の世界一決定戦、経済規模ではオリンピック、サッカーのワールドカップにつぐ大きさだそうです。

その他、オリンピックを目指す予選、サッカーのアジアカップ、エイジ別の世界大会など雑多な競技会も多く、スポーツジャーナリストの活動に停滞は許されません。今年も左のカレンダーのとおり主要なイベントがめじろ押しです。

日本スポーツプレス協会は、今年度より分科会を中心に「AJPS AWARD」を創設しました。それを記念して今年の AJPS NEWS は、分科会にスポットライトを当てた特集号といたしました。われわれの日頃の取材活動を少しでも知っていただければ幸いです。

日本企業が広報活動に使う広告費。2007 年はテレビ、新聞に次いで、第 3 位には雑誌を追い抜いて Web 関係が占めたそうです。メディアの体系も大きく移り変わろうとしていることを痛感する今日この頃です。

最後になりましたが、今回もたくさんの方々の御協力で、なんとか AJPS NEWS を発行できたことを御礼申し上げ、発行が大幅に遅れたことをお詫び申し上げます。

AJPS 日本スポーツプレス協会会報 25
MARCH 25 2008

編集・発行人　水谷　章人
編集スタッフ　白髭隆幸、石川 聡、吉田かおり
編 集 協 力　光本　淳（色えんぴつ）
編集・発行所　日本スポーツプレス協会
（AJPS）
〒 112-0013
東京都文京区音羽 1-21-10
関根ビル 603
TEL. 03-3946-9033
FAX. 03-3946-9033
Web http://www.ajps.jp
E-mail:info@ajps.jp

本誌掲載記事、写真を無断で転載することはできません。

canon.jp
CREATE
PRO-LAB FOR CREATIVE PROFESSIONALS
FUJIFILM
HCL
アサヒカメラ
Nikon
OLYMPUS
PENTAX
TOKYO VISUAL ARTS
ユニバーサルカラー
AJPS
日本スポーツプレス協会